



ふくおか [Good] 農業人100
 主な農産物 / イチゴ

浦川 泰洋さん (32歳) (営農地 / 柳川市吉富町)

一念発起で農業の世界へ!

《就農のきっかけ》

農業が身近に。昔からの“あこがれ”

元々、実家が農家でレタスやイモ等を作っており、幼い頃から遊びの環境の中に農業があったので、漠然とですが将来的には農業をしたいと考えていたという浦川さん。

大学を卒業後、社会人野球で一旦は会社務めを経験しましたが、いろいろな制限等もあり、自分の思うとおりにならないことも多かったそうです。そこで、やはり自分なりのペースで仕事が出来て、頑張り甲斐のある農業をしたいと改めて思うようになり、一念発起で農業の世界に足を踏み込みました。

また、せっかく農業を始めるなら、最初に大きな投資が必要ですがハウス園芸で勝負してみたいと思いました。」と語ってくれました。

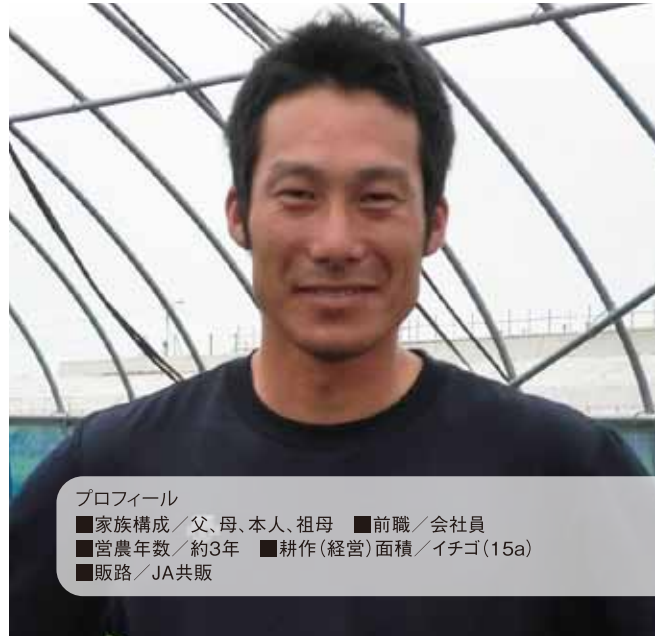
《これまでの過程》

人との出会いを大切に

浦川さんの住む柳川市は農業地帯で近隣にハウス園芸も多く、就農に当たって栽培品目を何にしようか悩んでいる時に、イチゴを栽培されている方と知り合う機会に恵まれました。

その方下、実際に自分のハウスを建てる前に約1年間イチゴ栽培に係る様々な作業を手伝わせてもらいました。その間に、周囲のイチゴ生産者の方々とも知り合い、収穫のタイミングやパック詰めなど、作業のコツを覚えてもらうことが出来ました。

現在でもその縁を大切に、判断に困った時などに相談させてもらったり、定期的に作業のポイントを教わりに行ったりしています。最初は、1つ作業をするのにも時間がかかり、基本に忠実に作業をすることで精一杯でしたが、2年目からは定植本数を変えてみたり自分なりの試行錯誤をしています。



プロフィール

- 家族構成 / 父、母、本人、祖母 ■前職 / 会社員
- 営農年数 / 約3年 ■耕作(経営)面積 / イチゴ(15a)
- 販路 / JA共販

《これからの展望》

向上心を忘れずに、まずは収量アップ!

イチゴ栽培は、今はまだ2作目で収量が約5.2t/10aです。県の平均以上の収量は上げられるようになりましたが、まだまだ伸びしろがあると思います。

イチゴは1年に1作で、毎年気象条件等が異なっているので、その年の条件に合わせた栽培管理が必要になります。長年の経験が物をいうこともありますが、経験不足を補うためにも新たな試験的取組みを積極的に行うようにしています。まずは今の経営規模で、毎年一段ずつレベルアップしてさらに反収の向上を図りたいと考えています。



Good 成功のためのポイント

作業日誌をしっかりとつけて、肥料のやり方や温度・電照管理など、特に失敗したと思うことを次の年に絶対繰り返さないように注意しています。